



■ 花粉症はわが国の社会問題！

本年度も2か月が経ち、先月末には5月としては10年ぶりの梅雨入りだそうです。

4月の異動で4名の研究員が配属となり、各部ともに新体制での試験研究がスタートしています。私は昭和63年林業センター（当時）を振り出しに、平成30年から2度目の試験場勤務で通算17年目となります。



試験場を上空約150mから撮影 R5.6.1

さて、岸田首相は4月3日の参院決算委員会で「花粉症はわが国の社会問題」との発言から花粉症に関する関係閣僚会議が開催され、30年後に花粉の発生量の半減を目指すなど、6月に策定される「骨太方針」に一連の対策を盛り込むとしています。

当試験場でも昨年度ビニールハウスの「少花粉スギの閉鎖型採種園」を整備し、令和7年度からの採種を目指し生育に取り組んでいます。また、本年度から3か年かけて少花粉ヒノキの採種園の整備も進めてまいります。

昨年度から長期総合計画の後期5か年のアクションプラン「和歌山県 森林・林業 “新”総合戦略」がスタートし、重点施策である「低コスト林業及び循環型林業の推進」・「多様で健全な森づくり」については経営環境部、「紀州材の加工体制の強化と需要拡大」は木材利用部、「活力ある山村づくり」は特用林産部を主体に取り組んでいきます。

引き続き、県内森林の育成と保全、森林資源の有効利用に関する研究や技術開発を通じて持続的な紀州林業の発展に貢献してまいります。

職員一同、現場の声（ニーズ）を第一に、行政サイド（県庁・各振興局林務課等）とも連携し、業務に取り組んでまいりますので、本年度も当試験場の着実な試験研究の推進にご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

（場長 東山 貢）

■ 令和5年度の新たな研究課題

◆ 県産ヒノキの横架材利用に向けた性能評価(R5)

県内には、ヒノキの人工林資源量が豊富にあり、正角材では、強度が高い傾向にあることが過去の研究で確認されています。しかし、梁材や桁材といった横架材としての利用を想定した平角材については、割れを抑制する乾燥方法や、強度データに関する技術情報が不足しているのが現状です。このため、ヒノキ平角材を対象に、人工乾燥による割れの発生状況や、曲げ強度試験による強度調査を行います。（一岡）



曲げ強度試験イメージ

■ 令和5年度 研究スタッフの紹介

◆ 場長・副場長

場長 東山 貢 副場長 坂口 和昭

◆ 経営環境部

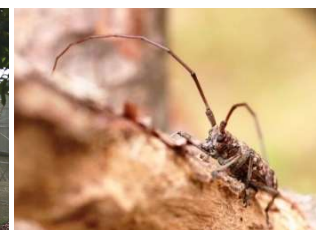
新免 哲則 : 部長
法眼 利幸 : 獣害・病虫害対策
山下 由美子 : 育林・林業経営
松久保 康輔 : 育種・病虫害対策・森林環境
鈴木 大輔 : 研究業務の補助
大谷 美穂 : 林業機械・虫害対策・育林

< 中辺路試験地 >

松本 康久 : 育種・種苗生産
日下 昭宏 : 種苗生産

【トピックス】

林業試験場には枯れ松がたくさん入った小屋があります。これは“松くい虫”と呼ばれる「マツ材線虫病」の病原体の運び屋「マツノマダラカミキリ」の成虫が、



枯れ松から毎日何頭出てきたか、何十年も昔から5～8月にかけて調べているものです。枯れ松は、毎年夏～秋に枯れたばかりでマツノマダラカミキリの幼虫が入った“新鮮なもの”を、冬に県内各所で伐採してきます。マツノマダラカミキリは昔から日本に分布していましたが、海外から入ってきた病原体の「マツノザイセンチュウ」と出会ったことで、有名な害虫となってしまいました。

こうして取られたデータは県庁森林整備課に提出し、翌年の県内の重要なマツ林保全のための防除（予防薬剤散布）時期を決める根拠となっています。（法眼）

◆木材利用部

- 山裾 伸浩 : 部長
- 坂本 淳 : 庶務担当 林業普及指導員
- 一岡 直道 : 木材強度・木質バイオマス
- 栗田 香名子 : 木材加工・保存・乾燥

【トピックス】

当部では紀州材の活用に向け、新規課題であるヒノキ平角材の性能評価の他、大径材から生産されるラミナ（板材）を活用した接着重ね梁の開発と、簡易型強度測定器を用いた原木段階での強度性能評価に関する研究に取り組んでいます。

また、令和2～4年度に実施したスギ心去り平角材に関する研究について、その成果を発信していくことにしています。（山裾）

【新たなスタッフ】

今年度新規採用されました栗田香名子です。現在は、スギ、ヒノキなどの原木段階での強度がどのくらいあるのかという調査研究に携わっています。木材に関わる仕事は初めてで手探りな状態ですが、周囲の方々から学び様々なことを吸収していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



◆特用林産部

- 坂口 和昭 : 部長
- 田中 作治 : 花木の栽培管理、紀州備長炭
- 是澤 哲生 : 山菜、きのこ、木の实

【トピックス】

令和2年2月に発行した「イタドリの加工・活用マニュアル」に新しい加工方法やイタ

ドリの様々な利活用の内容を追加して改訂しました。新しい加工や商品開発に活用してください。（是澤）

【新たなスタッフ】

昨年度まで在籍していた山菜、きのこ、木の実担当の杉本に替わり、今年度から担当となりました是澤哲生です。

今後、イタドリの研究成果の現地実証試験、生産者への普及指導や山菜、きのこのあらゆる利活用に向けた新たな研究を行っていきます。よろしくお願いいたします。

～ 中辺路試験地だより ～

少花粉スギのミニチュア（小木仕立）採種園を、令和4年度

紀の国森づくり基金活用事業により0.23ha 拡張し、当試験地で準備育成した苗木（約750本）を職員総出で植栽しました。計画では、約4年育成管理をした後に種子の採取が始まります。

なお、既存の少花粉スギ採種園（0.39ha）では、令和4年度に種子4kg を収穫して県内の苗木生産者に配布しています。令和5年度からはヒノキ特定母樹（成長の良い花粉症対策品種）の新たな採種園の造成も計画しており、花粉の発生源対策となるよう今後も事業を行っていきます。花粉症対策苗木や種子の生産量を増やすことで、社会的なニーズに答えていきたいと考えています。（松本）



少花粉スギ苗木植栽



少花粉スギ苗木生産



改訂版マニュアル



編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/006/>

※「やまびこ通信」は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。